Ⅳ　花き

実況

１ キ　ク

坂井では、「さき風」等暮植え 6 月咲きギクの草丈が 70～100cm である。ほぼ 6 月上旬に無加温ハウス栽培物は終了した。7 月中下旬に例年開花する「はじめ」等の晩生夏ギク(積算温度の到達が 7 月中下旬のタイプ)は、5 月下旬の干ばつで、窒素肥料が吸えなかったため､本年は開花が 7 月上旬に開花する見込みである。

写真１　ＪＡテラル越前目揃え

春植え盆咲咲ギクは灌水不足で草丈が低い。5 月下旬の降水不足で開花が 7～10 日早い見込み。5 月 5 日定植作型「はじめ」25.5cm、22 枚、「おきな丸」26.7cm 16.2 枚、「小鈴」15.5cm、13.4 枚で、開花期は 8 月になるが草丈は短い。

病害虫は、6 月上中旬に露地で黒さび病、白さび病が中発、クロゲハナアザミウマが少発生である。

奥越では、勝山山間部で白さび病が下葉にみられる。ピンチ物は「小紫」が草丈 49cm、葉数 28 枚、「小鈴」46.2cm、26 枚で、やや小さい(6 月 12 日調査)。6 月 17 日に越の花生産組合の作見が行われた。目揃え会はキク部会が 6 月 19 日に行われた。

病害虫の発生は 6 月上旬にシロシタヨトウが発生し、中旬にオオタバコガ 2 令幼虫が発生したが(上庄地域)､個体数は少ない｡その他の害虫として､キクキンウワバ､シャクガ(勝山村岡)､キクスイカミキリ(全域)が少発生。白さび病、黒さび病は 6 か所の圃場で見られた(全域、発生中)。

写真２　黒さび病(6/19)　大野市

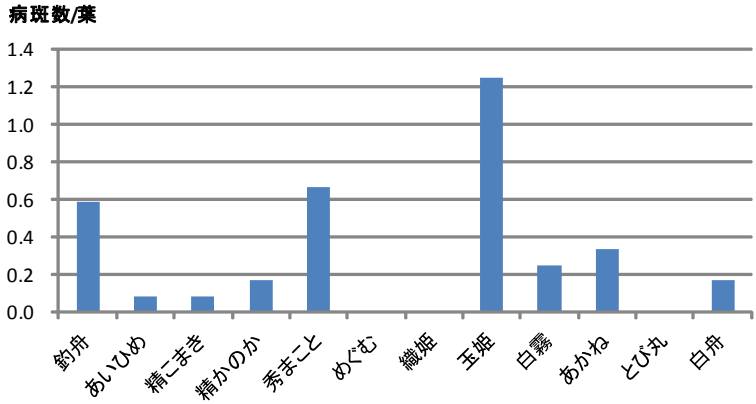

図1 品種と黒さび病病斑数の比較(6/5､富田)

福井の春植え 8 月咲きギクの 6 月 16 日調査(昨年 9 日)で、草丈は福井市南部で「小鈴」49.5cm(51cm、前年 6 月 9 日調査)、蕾径 2mm、「小雨」65cm、蕾径 3mm である(69cm)。福井北部の草丈は、6 月 9 日の調査で「小鈴」34.5 (57)cm、「花絵」42.5 (52)cm である(昨年 6 月 9 日調査)。

写真３　福井花卉出荷組合目揃えと研修

病害虫では､福井市ではアブラムシ類が多発で､白さび病の発生が見られ、カスミカメムシ類の被

害と思われる芯止まりが目立った。5 月 27 日には福井花卉出荷組合で目揃えと研修会が行われた。

丹生では 6 月 16 日調査で、春植え 8 月咲きで「はじめ」49cm(55cm)、「やよい」55cm(55cm)、「小鈴」49cm(前年 55cm)である。5 月の乾燥から生育は回復しており、昨年と同じぐらいの生育となった。ただし、病害虫は、カスミカメムシ類、アザミウマ類の被害がみられる。

写真 4　コアオカスミカメムシ

丹南の越前市では 6 月 16 日調査で、春植え 8 月咲きギク「恋心」25cm(55cm)、「はじめ」14cm(45cm)である。小ギクは前年より草丈が短い傾向が顕著である。

表1　本年度の生育状況

地区	品種	草丈(cm) 2017年	2016年	2015年	備考
福井市二日市	小鈴	34.5	57	40	カスミカメ芯とび
	花絵	42.5	52	48	
福井市東郷	小鈴	24	29	38	エスレル2回処理
	小雨	34.5	41	52	
福井市大土呂	小紫	56.5	51		白さび病、アブラムシ類
	小雨	65	69		
	小鈴	49.5	51		
	恋心	65	65		
越前町宮崎	シューペガサス	32	34		アザミウマ類、カスミカメムシ類の被害多い
	小鈴	49	41		
	恋心	64.5	51		
	花絵	61	47		
	やよい	53	45		
越前市箕脇町	はじめ	14	55	45	
	松風	24	50		
	秀光	25	32		
	恋心	43	55		

二州の暮植え小ギクの草丈は 6 月 19 日調査（昨年 6 月 16 日調査)「小鈴」69.2 cm、「花絵」75.4cm、「さざなみ」74.0cm で、病害虫はアブラムシが中発。

春植え盆小ギクは、「さんご」、「秀光」、「小夏」、「めぐみ」、「銀星」、「みのる」、「恋心」に、新たな白さび病病斑が発生した。感受性品種と推定される。「はじめ」、「ふさえ」、「スーパーイエロー」、「シャロット」、「みのる」が出蕾した。高温積算で花芽が誘導される夏ギクタイプと推定される。「小鈴」50cm(昨年 52.2cm)、花絵 58.6cm(昨年 42.8cm)。アブラムシ類中発生、ウワバガ幼虫、グンバイムシの食害が見られた。

写真 5　グンバイムシ成虫

9 月咲きギクの「わかさ」は 11.2cm(昨年 12.8cm)、「映虹」12.2cm(8.2cm)、「おりがみ」13.0cm(5.1cm)である。アブラムシ類中発生、キクモンサビダニ一部に発生。

若狭の暮植え小ギクは 16 日調査（昨年 6 月 19 日調査）の「はじめ」が草丈 99cm(117.8 cm、立弁)、「とび丸」が草丈 80.4cm、蕾径 7.0mm と昨年並みか、やや遅い。

春植え 8 月咲小ギクの「しらかば」が草丈 50.8cm(42cm)、「翁丸」が 50.2 cm（昨年 51.2 cm)、「くれない」が 44.0 cm（昨年 44.6 cm)。

9 月咲きギクは 5 月 16 日から定植され、「南月」、「大信」、「おりがみ」等の品種で 7.2～11cm。昨年が 18～29cm であったのに対し、かなり遅い。

病害虫は、アザミウマ類が中発、カメムシ類による心止まり症状が目立つ(小浜市)。

２ ユ　リ

奥越のシンテッポウユリでは、「Ｆ$_1$オーガスタ」の４月下旬定植実生苗が、29 年 6 月 14 日調査で、露地栽培の葉数 6～7 枚とかなり生育が悪い。

坂井市の 3 月 30 日定植のカサブランカは 110cm、42 枚で 6 月下旬開花予定。4 月下旬定植のシンテッポウユリ「F1　オーガスタ」は草丈 10～15cm、揃いは良いが「雷山 2 号」は

ややばらつきがある。灌水ムラの可能性がある。

３ スイセン

促成栽培は、平坦地で栽培を行っている生産者が出荷時期の拡大を目的に導入している。養成球根の掘り上げは５月下旬から始まり高温処理は６月 12 日から行われた。

４ トルコギキョウ

坂井の抑制栽培の２度切り栽培の「ロベラピンク」の草丈は 70cm(6 月 12 日調査)。出荷は昨年よりやや遅い。やや細く、一部にアザミウマ類の食害と炭そ病が発生。

「バルカン」系の春植えでは、草丈 15～25cm、灌水不良個所が見られる。

奥越の大野市では、ロジーナシリーズ 5～7 対葉、草丈 12cm となっている（6 月 14 日調査）

南越の６月 17 調査では、二度切栽培の「バルカンマリン」が 56cm、発蕾開始。「ボヤージュグリーン」69cm と昨年よりやや悪い。

昨年 11 月 15 日に定植した６月咲の「ボャージュグリーン」90cm、「プチフル」シリーズ 78cm で収穫間際。４月下旬定植の盆咲きは草丈 25～40cm、一部品種でカルシウム欠乏症がみられる。

「フルフルバイオレット」の草丈が 70cm(85cm)である（前年６月 11 日調査)。４月上旬定植の「モレットマリン」「ブライダルスノー」の草丈は 25cm と昨年並みか少し早い。

二州では、６月 19 日調査（昨年６月 16 日調査)、敦賀の５月 3、4 日に定植された「ブルーシルエット」、「ピンクシルエット」が 17.0cm(28.6cm)、13.4cm(31.0cm)と生育が悪い。11 月 21 日定植の「ブルーシルエット」77.2cm、「ピンクシルエット」78.6cm で、開花始めである。

若狭では、「エクローサホワイト」「あすかの舞姫」などが５月下旬～6 月上旬にかけて定植されている。

５ その他

あわら市のヒマワリは、6 月 13 日調査で、3 月中旬播種の「ビンセント」で 110～120cm、出荷終盤。アスターの「ステラシリーズ」電照促成作型は、6 月 10 日より出荷開始。鉄欠乏症、薬害が一部の株にみられる。ストック部会は 6 月 13 日に作付検討が行われ、市場対策が検討された。

対策

１　梅雨期の圃場排水の徹底

梅雨期の長雨が続くと、根の障害が発生する。そこで、畝の再整備を実施し、冠水しやすい圃場で栽培している場合は、畝溝とこれに交わる集水溝、排水路の溝さらえや清掃、除草を十分に行う。

逆に、乾燥気味の気候が続いている場合、畝間灌水を行う。下葉の 1/3 が朝方から萎れている状態であると、畝間灌水を行う必要がある。夜温が高いときは畝間灌水をなるべく行わない。

実施前に溝さらえ、通路の清掃、土寄せ等を行い、スムーズに水が走るようにする。畝間灌水は、圃場が湿田で排水が悪い場合は、走らす

写真６　陽が昇っても水が抜けない圃場

程度、そうでない場合は通常の灌水を基準とするが、夕刻～早朝までとし、明朝の 10 時には完全に水がおちているようにする。

2　梅雨期の病害虫防除の徹底

1）キク黒さび病

梅雨期の湿潤な季節に多発する。白さび病と異なり、比較的高温でも発生が続くため断続的に発生が続く。

日当たり、風通し、排水をよくする。病葉は見つけ次第摘除する。治療剤としてはマネージ乳剤しか登録されていないため、予防剤として有機硫黄系剤（兼商ステンレス、ジマンダイセン水和剤、エムダイファー水和剤）の散布を励行する。兼商ステンレスは薬害に注意する。

2）キク黒斑病・褐斑病

発生は、降雨との関係が強く、摘心後に降雨が多い場合には早くなる。高温多湿の条件で感染が拡がり、降雨等による土壌の跳ね上がりも下葉への感染が助長されるため、例年被害が多い品種は、梅雨前に下葉かきを行う。病葉は、二次感染を防ぐために、見つけ次第摘葉し、圃場外で処分する。生育初期にダコニール 1000、ストロビーフロアブルやベンレート水和剤の散布を行う（表 3）。

写真 7　黒斑病から下葉が枯れあがった株

表3　登録のある薬剤例

殺菌剤名	希釈倍率	使用回数	備考
サンヨール乳剤	500倍	8回以内	薬害注意、有機銅剤、部会リストにあがっていない
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	3回以内	白さび病にも登録があるが、耐性菌に注意。
ダコニール1000	1,000倍	6回以内	耐性菌出にくい。
ベンレート水和剤	2,000～3,000倍	6回以内	

3）ハダニ類

梅雨明け後の乾燥する夏場に発生が多くなるので、梅雨の期間中に１回と梅雨明け前に１回散布すると効果がある。薬剤の連用によるダニ類の薬剤抵抗性を抑えるため、系統の異なる殺ダニ剤を使用し、生育密度が低い時点で殺卵効果のある薬剤を散布する。圃場の周辺の除草を行い、圃場内への侵入と繁殖を抑制する。特に、下葉の裏に十分薬液がかかるよう、斜め上向きに噴口をむけ、散布する。

4）カスミカメムシ類

秋植えの６月咲きギク等の未収穫株が発生源となるので、圃場内に花を残さない。羽のない幼虫が多くを占めると思われる６月中下旬にローテーション防除を行う。

特に蕾や花に成幼虫が集中するので、蕾や花がついたものは注意する。

防除薬剤はスミチオン乳剤かダントツ水溶剤、スタークル顆粒水溶剤（アルバリン顆粒水溶剤、）がカメムシ類に登録がある。日中になると成虫の飛翔が活発となるため、早朝に防除を行う。

3　夏秋ギクの品質向上対策

1）追　肥

止め肥の施用時期は開花時期から約 50 日前ぐらいであるので、施用後、梅雨時期の降雨が多い年では、生育後半に肥料が切れる場合がある。葉色が落ちた場合は、速効性の化成肥料を少量施用する。ただし窒素肥料が効きすぎると白さび病が発生しやすくなるのでやりすぎない。

2）下葉かき

薬剤散布しても地際部の葉裏には十分に薬液がかからない。さらに病害に侵されている場合は、感染源として残りやすい。風通しをよくして、ムレを防ぐとともに、病害の下葉からの伝染を防ぐため、全体長の５分の１程度の下葉を除去する。除去した葉は圃場に放置しないで、圃場の外へ搬出する。

ハモグリバエ類幼虫の食害痕が黄変している場合は、必ず葉をとりのぞき、圃場外で処理する。

3）開花促進方法

ジベレリンの水溶液を散布することで、キクの開花が促進される。花首がのびやすい品種には用いない。登録された使用方法を守る。

剤　　名	対　象 作　物	使 用 濃 度	使 用 時 期	使用方法及び注意事項
ジベレリン水溶剤 ジベレリン液剤	キ　　ク	25～ 100ppm	生　育　期	茎 葉 散 布　50 ～ 100 ℓ /10a、使用回数２回以内。

4　スイセンの管理

1）促成栽培の球根管理

斑点病の発生がひどかった圃場の球根はなるべく用いないようにする。高温処理、くん煙処理後はできるだけ涼しい納屋などで保管する。乾腐病等の病害が発生している球根は適時取り除く。

2）促成栽培の定植後の管理

発根と発芽を促すためスプリンクラーや灌水チューブなどによる散水を行うとともに遮熱ネット等での減光、敷きわら設置で地温を極力低下させる。

3）スイセン葉先枯病がひどかった圃場では、太陽熱消毒を実施する。甚大な被害があった部分に透明マルチを被覆し、土などを掛けて密閉し、梅雨明け後から１か月程度行う。

5　ストックの播種と育苗

1）播種

平坦地では７月下旬播種を目安に準備を進める。発芽適温は 20～25℃の涼温を好むため､酷暑期は発芽が悪くなる場合がある｡特にアイアンシリーズは発芽が悪くなる。

2）播種用土

清潔で粒子の細かく揃ったものを準備し、覆土は発芽を揃えるため均一な厚さにする。用土中の肥料分を少なくすると、葉色が薄くなって、鑑別がしやすくなる。

3）八重鑑別

八重率を高めるため、必要な苗数の３倍量程度の種子数を播種する。セル成型トレイに播種する場合、２～３回鑑別する。第１回目は、播種７～８日後に発芽が遅れたラッパ型の奇形葉を抜く。２回目は淡い葉色で子葉が長く、大きいものを残す。最後の３回目は生育不良株を除去する。

写真８　スイセン斑点病

4）播種後の管理

雨よけ下で行い、高温対策のためにハウスの外側に遮熱ネット等を張る。育苗箱はベンチ等の上に置き風通しを良くし、灌水は地温の低い早朝に行う。

5）ストックの苗立枯病と苗腐病

立枯れ性病害が発生した場合は、被害株を抜き取り、病原菌を調べる。苗立枯病（リゾクトニア菌）では、発病株を引っ張ると、地際からちぎれるが、苗腐病（ピシウム菌）の場合は、引っ張ってもちぎれずに根がついてくる。

6）直播栽培

播種時の地表面の温度を極力下げるため、70～80％の遮光資材をハウスの外側にかけて、風通しを良くして地温の低下に努める。播種後は土を乾かさないように絶えず灌水する。徒長防止のため、発芽したら、遮光資材を 5～7 日以内に取り除く。

6　ハボタンの播種

1）　７月中下旬にセル成型トレイ 200 穴やペーパーポットを用いて播種する。高温期の播種では、遮光 30％程度で行うが、徒長しやすいため、かん水は必ず午前中に行い、遮光ネットをこまめに開閉する。

2）切り花の場合、播種 20 日、本葉４枚程度の若苗で定植を行うと草丈が伸びる。直播は、12～15cm ネットの枠に２粒落とす。